

納 貯 会 報 むさしの

皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ますます健勝のこととお慶び申し上げます。

所沢税務署管内納稅貯蓄組合連合会の会報紙「むさし」は、100号を区切りとして、組織面と予算面の問題から約3年前に休刊しました。このたび、101号を復刊できたことは、会長としてこの上ない喜びであり、これもひとえに、納貯再構築にあたって、指導とサポートをいただきました国・県・市の皆様、そしてご理解とご協力をいただきました組合員の皆様、各市納稅貯蓄組合、各関連団体及び賛助会員の皆様のおかげであります。この紙面をお借りして深く感謝申し上げる

次第です。

さて、昨年は各市において納税貯蓄組合が設立され、会員数が正会員と賛助会員で200名を超えるなど、所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会にとつて、大きな節目となる年になりました。

当会は、全国の納稅貯蓄組合同様、単位会である各組合の組合員の減少と高齢化による組織の弱体化、財政基盤の脆弱さにより存続が危ぶまれていました。以前から活動いただいている役員の皆様（所沢市・田中満治氏、古谷賢一氏、中島光次氏、柳内仁氏、飯能市・清水文夫氏、池田まつ枝氏、大附貴子氏、市川直是氏、狭山市・土金英夫氏、内田静江氏、横田久代氏、入間市・齊藤正明氏）とともに、約3年前から納貯再構築のため

の努力をしてきましたが、なかなか実を結ぶことができず、この先どうしようかということが続きました。このまま、納貯の活動を停止するしかないと思ったこともありました。が、「租税の納期内完納」に向けた事業や中学生の「税についての作文」募集事業による租税教育事業など、戦後の経済的混乱から経済成長期まで、ボランティア精神という気高い志と熱い情熱を持った諸先輩が続けてきたこと、そして現在の会員もそのことを誇りに思ひ、熱い志を持っていましたので、何とか継続したいという想いでいました。その想いが天に通じたのか、一昨年9月に転機が訪れました。

事で所沢市前医師会長の柳内仁先生のお声がけにより各市医師会や医療関係団体の会長の皆様にご協力をいただきました。また、税理士会の皆様の納貯への加入や役員への就任などのご支援をいただきました。さらに、税理士会の構成員である各関連団体の会長の皆様のご支援もいただきました。昨年6月に入間市納税貯蓄組合（小林昌幸組合長）、10月には飯能市納税貯蓄組合（吉島一良組合長）、所沢市納税貯蓄組合（荒木章組合長）、そして狹山市納税貯蓄組合（金子俊哉組合長）が設立され、「納貯の灯はふたたびともされ」ました。皆様に心から感謝申し上げます。

であり、納貯の事業はまさに市民の皆様の納税意識の高揚を図り、ひいては「私たち一人一人が行政とともに歩む」といった意識を浸透させるためのものだと考えます。今まで以上に納貯の存在意義が求められているのではないでしょうか。

納税貯蓄組合の活動を通じて、国・埼玉県及び各市、そして金融機関との連携・協調を図りながら、「納税資金の計画的備蓄」による「租税の納期内完納」推進と中学生の「税についての作文」募集や朗誦会など納税意識の高揚に取り組み、将来にわたって我が国が経済成長を続け、社会全体が真の豊かさを享受する社会を築けるよう、私たちは、民主主義社会に貢献する組合として事業を推進していく所存です。

――昨年9月の役員会で、所沢市の田中瀛治氏が、これまでの納貯の地道な活動について熱く語られました。そして、「会費制を導入しても、納貯を存続しよう。私の趣味は納貯とゴルフだった。納貯は、国・県・市の財政を支えるため、納期内完納を推進してきた。そして、これからを担う中学生の生徒さんたちに税に関する作文を書いてもらい税の重要性を学んでもらってきた。こんな素晴らしい趣味はない」とおっしゃっていましたとき、役員の皆様の納貯存続の意思がなお一層強くなりました。

そして、所沢税務署中田義直前署長の強力なご支援により、加速度的に組織再編の道が開かれ、現署長の中村一雄署長の継続したご支援により今日に至りました。また、当会理

私たちには、現在、豊かさを享受しているものの、今般の少子高齢化が進む社会情勢を踏まえると、豊かで持続可能な社会を将来世代につなげることに不安があります。また、地域創生が叫ばれていますが、個が強調され、自治会などとの「ミニユーニティ」の存続が危ぶまれている地盤があると聞いています。将来にわたって経済成長を続け、社会全体が真の豊かさを享受する社会を築くためには、医療・福祉などをはじめとするさまざまな公的サービスを提供する国や、び地方公共団体が果たす役割が非常に大きいことはもちろんですが、「納税は社会貢献の第一歩」と言われるようになると、民主主義社会の一員である私たち一人一人が、公的サービスを提供するために必要な経費を賄う租税を、国民・県民そして市民として皆で広く公平に負担すべき

どうか今後とも皆様方のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



會長
三上 武壽



平成28年12月暮れに三上会長がお亡くなりになりました。三年前に病がわかり、納税貯蓄組合の会長として、闘病しながら納貯再生に向けご尽力をいたしました。

三上会長のごあいさつを会報誌“むさしの”に掲載することについては、執行部として迷いましたが、三上会長が、むさしの”的復刊を強く希望していたことから、そのまま掲載することにしました。三上会長のご冥福をお祈りするとともに、そのご遺志を酌んで新生納貯を引き継いでいく所存です。

であり、納貯の事業はまさに市民の皆様の納税意識の高揚を図り、ひいては「私たち一人一人が行政とともに歩む」といった意識を浸透させるためのものだと考えます。今まで以上に納貯の存在意義が求められているのではないでしょうか。

納税貯蓄組合の活動を通じて、国、埼玉県及び各市、そして金融機関との連携・協調を図りながら、「納税資金の計画的備蓄」による「租税の納期内完納」推進と中学生の「税についての作文」募集や朗読会など納税意識の高揚を取り組み、将来にわたって我が国が経済成長を続け、社会全体が眞の豊かさを享受する社会を築けるよう、私たちは、民主主義社会に貢献する組合として事業を推進していく所存です。

どうか今後とも皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。